

町田市民文学館のあり方見直しに関する生涯学習審議会からの答申について

2018年7月24日付けで、教育委員会の附属機関である町田市生涯学習審議会（以下「審議会」という。）に「今後の町田市民文学館のあり方について」を諮問し、2018年10月17日に答申を受けましたので、報告いたします。

1 諮問内容

「今後の町田市民文学館のあり方について」

- (1) 町田市民文学館の存在意義について
- (2) 町田市民文学館の存廃について
- (3) 適正な管理運営手法について

2 主な答申内容

(1) 町田市民文学館の存在意義について

審議会を確認した町田市民文学館の存在意義は以下のとおりです。

- 文学に触れ合うきっかけ、文学の扉として豊かな心を育む場所
- 町田ゆかりの文学者の顕彰による街への誇りや郷土愛の醸成
- 文学活動を通じた市民交流・楽しみの拠点
- 町田の文化的イメージを向上させる文化装置
- 貴重な文学資料の保存・継承
- 市民の「ことば」をめぐる活動の支援・育成

(2) 町田市民文学館の存廃について

審議会では、町田市民文学館を今後も存続させるべき施設であるとしています。

審議会を確認した存続させるべき理由は以下のとおりです。

- 市民意識調査の結果から、市民が町田ゆかりの文学者の顕彰等を通して、文学を基盤とした文化都市としてのまちづくりや子どもたちに対する教育・学習への波及効果を期待している。
- 近隣自治体や全国文学館協議会に登録している公設文学館に対するアンケート調査によると、文学館を設置している多くの団体において、文学館が「地域に根差した文学・文化活動の拠点」としての役割を果たしている。
- 開館以来、来館者数を概ね右肩あがりに伸ばしてきた。今後も自らの生活を充実させるために町田市民文学館で活動する市民が増えていく可能性が高く、町田の文化的イメージ向上への貢献が期待できる。
- これまで多くの乳幼児から小学生向けの学習事業に重点的に取り組んできており、子どもの感受性を育む役割を担っている。
- 新たな文化の創造につながる市民の活動を支援する役割も担っており、市民の交流の場や文化活動の拠点として重要な施設である。
- 現在の場所で継続して事業を行っていくことは、町田市民文学館の価値をより高めると同時に、町田の文化的イメージの向上にもつながる。

(3) 適正な管理運営について

①事業の見直しについて

町田市民文学館が、より市民から必要とされ、愛される施設となるための審議会からの提案は以下のとおりです。

○子ども向け事業の充実

子どもの学びへの意欲を引き出すような、創作活動などの主体的な学びを取り入れた事業を展開する。

○「文学」の概念の拡大

質の高い事業を維持しつつも、これまでの「文学」という概念にとらわれずに、多様なジャンルを取り込んだ親しみやすい事業を増やしていく。

○市民の発信力を活かした情報発信

市民を巻き込んだ事業を行うことで、行政からの情報発信だけではなく、市民自ら情報発信を積極的に行ってもらおう。

○市民の自己実現を支える事業の展開

一人ひとりの学習ニーズや学習の段階に寄り添い、ステップアップにつながる支援を行っていく。

②管理運営手法の見直しについて

審議会が挙げた管理運営方法の検討にあたって留意すべき点は以下のとおりです。

○ビジョンの明確化と市民参画

市として明確なビジョンを持ち、市民目線や専門的・客観的視点からの意見や評価を受けながら、絶えず運営方針等の見直しや改善、改革を行っていくことが必要である。

○管理運営手法検討の視点

市民の学習環境をどう充実させていくかという視点を重視し、町田市民文学館の発展につながるような手法を選択できるよう、十分に検討を行っていくことが必要である。

○様々な管理運営手法の検討

民間経営のノウハウを導入する場合には、様々な手法のメリット・デメリットを詳細に検討するとともに、町田市民文学館がこれまで蓄積してきた学芸員の専門的知識や資料の寄贈者、市民との信頼関係等を踏まえた慎重な検討が必要である。

3 今後のスケジュール

2019年2月	教育委員会での見直し方針の決定
3月	議会常任委員会報告
4月～	見直し方針に基づく事業の見直し、管理運営手法の検討